



大和市協働ルール（拠点部会）

No.2

# ワークショップニュース

## はじめに

2004年2月8日、大和市協働事業における「協働の拠点の運営方法について検討する」ことをテーマに、拠点となるプレハブにおいて第2回目のワークショップが開かれました。

第1回目のワークショップでは拠点の機能について話し合われましたが、今回はそれをふまえ、具体

的な運営方法を考えるために、すでに活動している神奈川県下の3つのサポートセンターの運営方法を参考にしながら、大和市にふさわしい方法を探っていきます。

ワークショップの開催に当たり、拠点部会部長である小杉皓男氏から拠点の役割と将来展望についてお話がありました。

拠点となる場所が、小田急線から見えるという面白い場所にあります。色々なサポートセンターを回って見たときに、多くは、立派なビルのワンフロアを拠点としていました。ここはそれとは違い、地べたに平屋で建っています。面白いことです。使いにくい所もあるかもしれないが、自由というものを得ている感じがすると、前回誰かが言っていました。「自由」をどのように保障していくかが、テーマになるのではと思っています。

運営・管理と自由はどこかでぶつかり合いますが、どのように自由を獲得していくかです。

駅から歩いてすぐそばで、建物が開いているかも電車から見えます。そういったことをどのようにメリットにしていけるか。ここで、楽器やトンカチを使っている、周辺から「うるさいぞ」という声はないと思います。

拠点の場所は紆余曲折がありここに決まりましたが、通過駅として決まったと思ってください。

昨日、自治基本条例のフォーラムがあり、市長が1日付き合ってくれました。市長は、大和市民は民度が高いとしきりに話していました。それを実感としてつかめるかは、それぞれの感覚と情報によると思いますが、市民の参加度が高いというのは、拠点としてサポートしていかなければいけないテーマになると思います。

拠点部会では、インキュベーター機能（卵の孵化をする）「卵からヒヨコに、ヒヨコから親鳥」になっていく市民の活動を保障することが拠点の大きな仕事だと話し合ってきました。

巣立っていく市民団体が、拠点に同居すること

によってお互いに刺激し合ったり、情報を共有したり、挑発したり、共通項を見つけたり、そういったインキュベーター機能を設けることが拠点部会の理想でした。しかし、現実の制限された拠点となったときに、若干損なわれている所もあります。もっと具体的に持続的にお互いが育て合っていくことがこのスペースで保障されないといけない。次の良い駅に行くための通過点として認識し合っていきたいと思います。

相模原に視察に行きましたが、裏話を聞き、運営していくことがいかに難しいかを実感しました。そこをどのように解決していくかは、民度の高さによるのではないかと、しみじみ感じながら帰ってきました。

前はレイアウトを考えましたが、今日は大事な運営方法を考えます。また皆さんの情報と知恵を絞っていいワークショップにしていきたいと思えます。

## 【拠点部会ワークショップの流れ】

### 第1回ワークショップ

「協働の拠点の機能について検討する」  
2004年1月17日

### 第2回ワークショップ

「協働の拠点の運営方法について検討する」  
2004年2月8日

事務局より運営に関する前提条件を説明

常駐のスタッフを設置してほしい

- ・ここには、市の職員が常駐しないことになっています。
  - ・役割としては、施設の管理、備品などの維持管理、消耗品の補充、館内清掃、鍵管理、情報の収集と発信（HP、パンフレット、統計資料、会報）、連絡調整（行政などとの）予算（300万円）
  - ・人件費、消耗品、運営費、活動費を含めて。
- この2つが前提条件になります。

### 前提条件に関するQ&A

**Q:時間外等の活動になったときの光熱費、鍵などの問題は？**

A:すべてこの予算内での活動として考えてください。

**Q:会議室を利用する場合、登録が必要なのか。市民団体が相談に来たとき、アドバイスやサポートができる体制が必要なのか。**

A:検討していただいて、意見を尊重しながら拠点部会と運営方法を決めていきたいと思っています。

**Q:商工会議所の夜間の管理は？**

A:お金をかけてその都度頼んでいます。市の連絡所が7時までなので、ロビーは使えます。5時～10時は外に外注しています。その部分は利用者に料金をもらっています。

**Q:時間は何時から何時までの予定ですか？**

A:基本的には10～22時、週1回休館日を設けています。それ以上やる場合は、光熱費等がかかるので対応を考えてほしい。

・通常の光熱費は別に予算がたてられていますが、通常の会館時間の想定でしか予算組みしていないので、それ以上使う場合は使っても良いが、協議事項になるということです。

・まだ、試算の段階です。10～22時くらいの1人分の人件費を確保しています。その際週1回休みを取るという計算になっています。1週間丸々使うとなると、どこかでその人件費を確保していただくこととなります。体制をどう考えるか、鍵の管理は最後の人が閉めていくなど考えて、17～22時の間は人件費がかからないようにして、その分を休みの日に回すことも考えられます。光熱費は、どのくらいかかるか正確には計算していません。開館時間については曖昧な部分があります。

**Q:300万円の中に印刷機等が入っているのか？**

A:1人分の人件費270万円程度、消耗品10万円、他の余分な分を20万円として考えています。コピーは団体で使う場合、インク代等は個人負担になります。事務局が使うインク代などは、消耗品の中に入れていきます。

**Q:270万円の人件費ではなく、我々が300万円の使い方を決めることはできますか？人件費を200万円にしてほかを我々が使えたり、使い方を替えられますか？**

A:まだ、決まっていないので何とも言えませんが、一応、負担金として300万円と決めています。最低条件としては、常に管理人が居て情報の発信基地になるのであれば、その中の費用の内訳を替えても差し支えはありませんが、人件費の270万円というのは最低の額だと思います。

**Q:270万円の人件費で2人で運営するというのもあるのか？**

A:1人103万円の扶養の範囲を超えないということや、保険の適用を受けないことを考えると、1人1日6.5時間として2人で担当することになると4人くらいでローテーションしていかなくては無理だと思います。

・スタッフにどのくらい専門性を求めるか、どういう体制で回すかは協議していただきたいことです。特に決められた前提条件としては大枠の予算だけです。

・できれば、管理だけではなくプラスの要因を含んだ運営委員会をつくっていただければありがたい。管理の部分についてのお金は出しますが、相談等の機能は運営協議会で補ってもらいたい。

Q:ここで稼いでもいいんですよね？

A:例えば、この会議室を時間いくらと貸し出してもいいと思います。鎌倉でも寄付金として運営費を稼ぎ出しています。

Q:300万円が負担金とありましたが、この位置付けは運営委員会が運営をするということになるのですか？

・今の話を聞いていると、市から委託されるようにイメージされます。協働事業という形で一緒にやっていく感じがしない。

A:先程から言っているように、掃除や鍵の管理は最低の条件であり、それ以上のことについては運営協議会で話していただきたい。ただの委託業務で出すならば、1人分の管理人し

か置けないですが、皆さんで運営協議会を広げていくことによっていろんな業務が生まれてくるのかなと思います。いかに膨らませていくかです。

Q:常勤スタッフをおくとしたら、身分的にはどうなるのか？

A:これからどういう形になるかわかりませんが他の市の条件で言えば、運営協議会をどこかのNPOに委託する形もあります。

Q:市が直接雇うという形はあるのか？

A:今の形で言えば、負担金としているので、運営協議会をつくっていただくのが一番いい。どこも請負先がなければ、市が直接雇用する形もあり得ます。

### 協働の拠点の運営方式を学ぶ

公設民営で運営されている神奈川県下のサポートセンターの運営方法について、タイプの異なる3つの事例を拠点部会の委員の方から報告してもらいました。

鎌倉市市民活動センターの公設市民運営方式について（関根孝子さんより報告）

- ・利用については、正会員が鍵の管理と日誌を書いて、責任を持って使っています。
- ・インキュベーション機能について聞きましたが、そういった声は聞かなかったということでした。皆さん身の丈にあったところで格闘しているので必要ないんじゃないですかというお答えでした。
- ・管理運営については、開設2年前から市民活動を推進するために話し合ってきました。市民サポート委員会を作り、応募し、解散し、また組織（NPOセンター設立準備会）を作り直して応募して今日（市民活動センター運営会議）に至っています。
- ・新しい人と前からいる人が情報を共有し、市民運営実験というのを1カ月間行い、全国初の公設市民運営のセンターができたということでした。
- ・当初は団体の代表がメンバーでしたが、現在は個人に切り替えて募集したとのことです。
- ・正会員は75名。正会員は、すべてどこかの部会に所属し運営活動を担っています。
- ・財政負担をしていただく賛助団体は103団体、年間3000円の会費。個人会員25名、2000円を財源協力してもらっています。



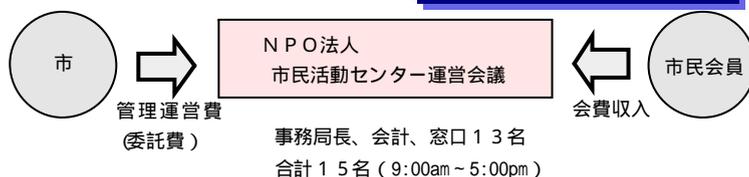
市民運営の実験段階



市民運営実験（9:00am～9:00pm）  
各委員の所属団体で1日1団体が受け持つ

- ・市民サポート委員会の後継組織
- ・個人としての参加システム切り替え

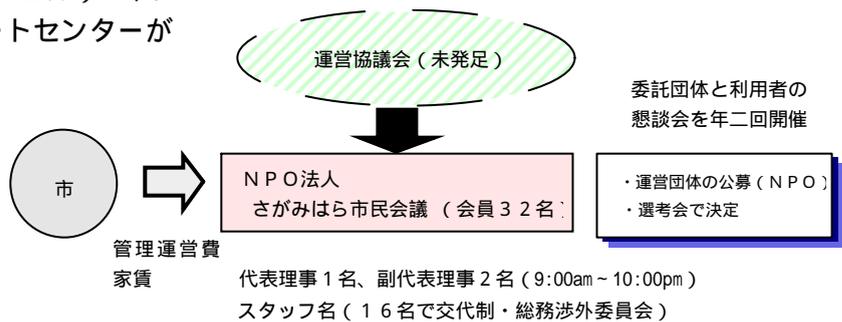
市民運営の実施段階



さがみはら市民活動サポートセンターの市民会議方式について（藤田高恵さんより報告）

- ・コピー機と印刷機使用料は、すべて市の収入になるとのことです。
- ・運営団体の公募をし、4団体が応募、すべてNPO団体だったそうです。
- ・NPO法人さがみはら市民会議は、相模原で市民活動をしている代表の方が正会員になっています。
- ・代表以外の理事が9名、総務渉外委員会、NPO研修委員会、まちづくり研修委員会、イベント交流委員会、情報委員会をそれぞれの理事が担当し、その下に委員会が入っています。
- ・窓口業務のスタッフは、それ以外の16名です。夜10時までなので、なかなか手がないので、スタッフは公募したということです。
- ・スタートして2年目ですが、現在はサポートセンター事務局準備会となっています。
- ・けやき会館(都市住宅整備公団のビル)の中に1つのテナントとして、サポートセンターが入っているというかたちです。

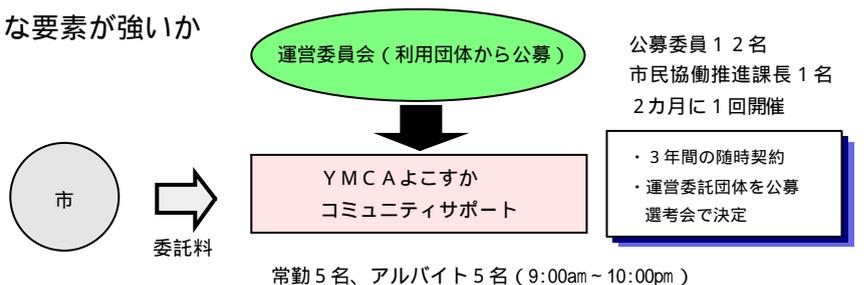
- ・課題として、窓口のスタッフと市民会議のメンバーが別の人間なので、意志疎通が難しいようです。スタッフが16名と多いので、スケジュール管理が大変とのことでした。
- ・年未年始以外は無休なので、休日や夜間などのスタッフが不足がち。
- ・NPO団体としての運営とサポートセンターの運営の二つがあるので両立が難しいとのこと。
- ・NPO団体の代表の集まりなので、それぞれが忙しいのにもかかわらず、運営もしなければいけないので非常に難しいとのこと。
- ・年2回の利用者懇談会だけでは、多くの市民の意見を反映する仕組みはできていないので、運営協議会があったほうがいいのではないかと思います。



横須賀市立市民活動推進センターの運営委員会委託方式について（河崎民子さんより報告）

- ・横須賀市は、追浜と久里浜にそれぞれ市民活動センターがあります。
- ・運営委員会の経費は委員の会議出席時間分と、ご理解いただきたい。
- ・個人的に思うことは、この市民活動センターも公設民営ですが、そのような要素が強いかと思います。

- ・運営委員会は2カ月に1回開かれている。公募された方は、個人として委員を務めています。



## 報告に対しての質問や意見

3つのサポートセンターの運営に関する見学報告に対し、質問や意見が出され、関根、藤田、河崎運営委員と事務局、市役所（関、藤、河、事、市と表記）がそれにお答えします。

### Q:利用者の評判はどうでしたか？

藤：相模原の場合は、アンケートか懇談会で聞いたかはっきりしないのですが、日曜日が開いているのはとても助かる。フリースペースがいつでも自由に使える。受付の対応がいつもいいということです。

事：利用者団体が直接運営をしている場合は、運営協議会や運営委員会は必要ないかと思ったりしますが、どこか1団体に頼む場合は利用者代表が集まる運営委員会があり、どう利用していくかを話し合う構成になっています。その中間が相模原のタイプになっているので、藤田さんの報告のように運営委員会はあったほうがいいのではないかと思います。

河：横須賀の場合は、運営委員会が2カ月に1回しか開かれていないということなので、委託されたところがほとんどの業務を行っている感じがする。その中で運営委員会の存在は、使い勝手の話や登録している団体が市民活動

団体としてふさわしいかを話し合っているように議事録からは見ることはできません。運営委員会で出されている声が利用者の声のように思えます。その中では、使いづらいということは出ていません。登録団体のデータを見ながら、いろいろな議論(例：NPO法人とはいえ、介護保険をやっているのが公益団体とは言えないのではないかと)がされています。

事：仙台のNPOセンターの場合は大きいですが、仙台も3年か5年で契約を見直すようになっています。雇用の継続を考えると問題ですが、ノウハウがそこにたまってしまわない限り変わらないだろう」と言っていました。

河：3年後には、市内の登録団体という条件を外すと言っていたのは、何か意図があるのかな？と思いました。

### Q:横須賀は、印刷機などありますが、パソコンもあるのですか？ホームページはあるのですか？



河：この運営委員会の報告は、ホームページから情報をもらいました。推測ですが、かなりの予算があるので、考えられるものはあると思います。

Q：ここの立ち上げは200万円の予算でしょ。多分、横須賀の場合はメンテナンスを考えると機器の買い換えは早いと思う。特にOA機器。11年に買ったものはもうそろそろ買い換えられるのではないのでしょうか。

河：そこまでは、わかりません。

Q：いつ立ち上げるかわからないが、まず最低の200万円くらいで揃える。これがうまくいったら、2年後くらいにはもう少し欲しいものがあつたときは、買ってもらえるのか。

市：運営委員会が必要なものをまとめていけば、次年度に予算要求をしていくことになると思う。

事：ものについては、いろいろ寄付をもらったり持ち寄ったりすることを考えましょう。貸してもらえたりという情報があったり、いろいろな役割の果たし方があるのではないのでしょうか。



Q:3人の方は、情報を聞いて大和にふさわしいあり方に近いところはどこだと思われましたか？

関：鎌倉の場合は、市民サポート委員会が2年前から市民活動の提言などをして、市と市民生活課と市民サポート委員会がかなり話をしてきました。大和の協働推進会議と経過は似ています。しかし、推進会議は市民活動センターをつくるために話し合ってきたわけではありません。市民活動センターに関しては、条例ができてから拠点部会ができ話し合うようになってきているので、ちょっと違うかな？と思います。これからが、市民の人と話し合っていくスタートかと思えます。

藤：今回取材を申し込んだときに、「申し訳ないけど市民サポート推進課に回してから取材や見学はしてほしい」と言われました。個人的に見ると、市とセンターの関係はどうなのかな？と思いました。相模原は、大和に向かないなと思いました。

関：私たちが鎌倉に行ったときは、市民スタッフの方が対応してくれました。運営協議会が運営を任せられるにあたり、コンペなどは行われなかったのか聞いたところ、長い間いろいろな団体が入り、解散することを繰り返してきたので、コンペではなく運営協議会ができたとのことでした。

河：横須賀市は、大和市推進活動条例に当たるものとして、市民公益活動推進条例というのがあり、大和市の協働推進会議に当たるものには、協議会というものがあります。大和市と違って、横須賀市の審議会のような位置付けになっています。市が設置し管理していたものが、市民運営になった経緯とか、サポートセンターの運営委員長をやっている方に取材を頼んだ所、結局、返事は市の職員からいただきました。大和市とは違った状況でした。直接参考にはならないかなと思いました。

事：藤田さんと関根さんに同行していったので、藤田さんと同じことを感じていました。急遽集めたアルバイトが16人いて、仕事をもっとしたい、したくない、土日は絶対にイヤだと言う人の調整にエネルギーを使ってしまうそうです。そのエネルギーを消耗してしまう人は無給でやっておられます。

事：型にはまったようにはならないので、やれるようにしやるしかない。大和市の場合、これだけ手続きを踏んで来ているのだから、大和市にしかできないふさわしいことを考えなければと思っています。

Q：鍵の管理、掃除、運営に関して何に期待しているのかわからない。情報の収集、発信、相談にしても何に相談するのかははっきりわからない。管理・運営など何を基にするのかわからない。基本的なところでみんなの認識が同じベースにならなくてはいけないと思う。

事：その議論をもう少し時間をかけてすべきという話もあったのですが、1つは後半の中で話し合いながら仕組みを考えていただきたいと思います。ノウハウをスタッフに貯めていくのか、事務局に貯めていくか、アルバイトをいくら並べても専門的な役割をなかなかできるようになっていかないの、どこを軸にして、経験を貯めていける仕組みとするのか、今、スタート時点で役割がこうですと説明できればいいのですが、やりながら考えるようなところもあります。どういう仕組みなら軌道修正がしていけて、大事なことを議論しながら進めていけるかが、ポイントだと思います。

Q：説明してくださいということではなく、先にそれを議論しなくてはということです。その結果、この人はアルバイト、この人はただ働きとなると思いますが、やはり、結果としてただ働きをするような人がキーマンになる。会社でも仕事ができる人に仕事が集まってしまうので、ノウハウがその人に集まってしまうということが起きます。



Q:鎌倉での「個人としての参加システム」に変えていった理由と変えた後の効果は？

関：最初は団体の代表や団体から推薦を受けた人が来ていました。それだと、自分の活動をしながらすることになるので、団体の代表者ではなくても市民活動に興味を持った人なら誰でもが参加できるように、より広くオープンにしたということです。



Q:ロッカー使用について、参加登録団体は無料とし、参加団体の連絡文書にも使用しては？

Q：それぞれ、他の団体にも連絡をしたいときに、郵便受けのように使いたい。

河：横須賀は、レターケースは無料です。

藤：相模原は、ロッカーもすべて無料です。

Q：以前、行政センターが入っていた所は、かなり広いスペースを自由に使えていました。ロッカーについては、部屋の一角に60個くらいはあり、登録団体の表札を付けて使用しています。郵便受け式はわからないが、障害者の学校に行ったとき、上のほうに先生が連絡事項を入れるスペースがありました。そういうのがあれば、参加団体にもお知らせできるのではないのでしょうか。

## 大和市の協働の拠点の運営方式を具体的に考えよう

今回、大和市が条例に基づいて設置しようとしている協働の拠点の運営方式としてもっともふさわしいと考えられる方法を、今までの他地域のサポートセンターの運営方法を参考にしながら、3グループに

分かれて具体的に検討してもらいます。検討するに当たって以下の3つのポイントに留意して、提案していただきます。

### 【しくみ図】

拠点部会としては、拠点を運営するに当たって協働推進会議とは別に自立性のある運営委員会を設置することが必要だと考えています。

- (1) 運営委員会の役割と構成をどうするか(団体で構成するか、個人で構成するか、何名くらいかなど)
- (2) 上記の運営委員会と実際に窓口につつまスタッフとの関係と、スタッフに期待される役割

### 【運営委員・運営スタッフ推薦リストづくり】

しくみ図で考えた運営会議と運営スタッフのイメージにぴったりだと考えられる大和市の人材や団体を推薦してください。

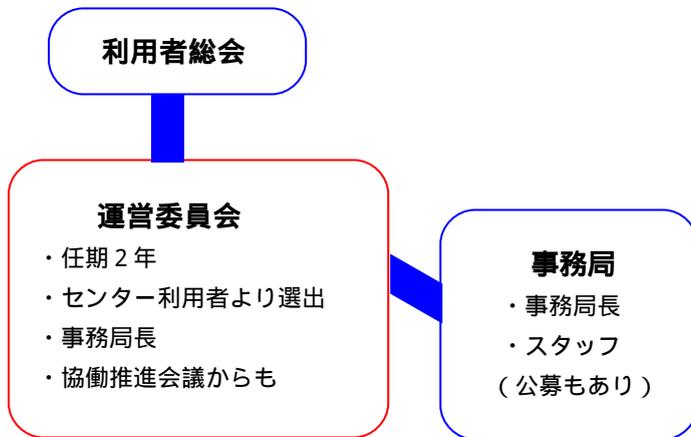
### 【その他期待したいこと】

開館時間や運営ルールの内容(届け出との関係など)について特に期待したいことなどあれば、できるだけ具体的に書き出してください。

# グループ1

## 運営委員会の構成と役割

### 運営委員会と事務局スタッフの構成と関係図



#### 運営委員会の役割

センター運営  
規約、規定の整備  
企画  
資金調達活動  
広報、情報の受発信（HP他）  
会計

#### 事務局スタッフの役割

センターの管理  
鍵の管理  
備品の管理  
現金、預金管理  
スタッフの勤務管理

#### 運営委員・運営スタッフ推薦リスト

#### その他運営方法について期待したいこと

- サポーター
- 高校生世代（若者）
- 賛助会員
- 企業との連携
- ラプスシステムの活用
- ・「ラプス」のシステムは市民活動の支援もねらいとしています。その機能の一例として、  
情報交換（ボランティア情報など）  
地域通貨「ラブ」...などの機能をぜひ活用しましょう。
- ・鶴間駅前にあるNPOラプスサポートセンターを会議などにぜひ使って下さい。10人前後なら、  
ちょうどよく入ります。

#### 発表

- ・利用者総会 運営委員を決める。任期2年
- ・事務局 運営委員でもなく、スタッフとも横並びではない。
- ・広報と事務局スタッフと重なるところがあるのでここに置いた。
- ・センターの管理の中にトイレ掃除とかも入っている。運営委員会でトイレ掃除をしても良いのではないかという意見もありました。
- ・高校生世代のサポーターがあれば、すごく良いのではないか。

## グループ2

### 運営委員会の構成と役割

#### 運営委員会と事務局スタッフの構成と関係図

参加団体の登録されたもので互選し、運営委員会を持ち事務局スタッフを決める。10名以下。(運営委員会)

運営会議10名～15名。全員を公募にする。構成：NP01/3、市民団体1/3、個人1/3。

利用する人全員が正会員となる。正会員費1000円。

登録団体及び個人から募る。

事務局スタッフ3人程度でローテーションを組む。

管理運営会議を構成する。議長1名。メンバー書記2人、会計2人＝事務局。企画担当3名。

公募と推薦10名。

鎌倉方式で、夜間・日曜・祭日利用者は正会員が責任を持って行う。

部会制にし、その正副にて構成。

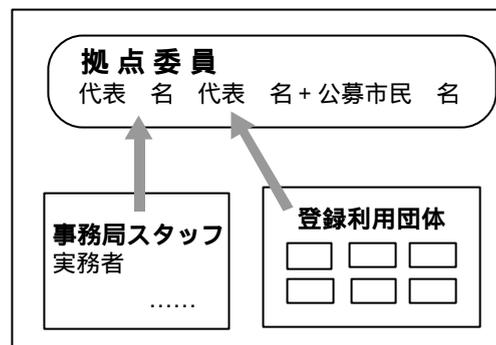
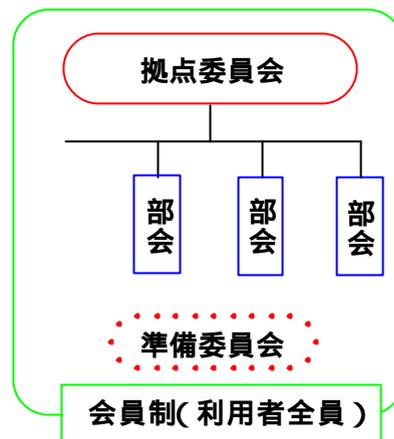
組織は必要によりできる。形式的なものにはあまりこだわらぬほうがよからう。簡単なつながりが良い。

運営委員会の設立準備会委員を公募。その準備会のスタッフも募集する。

可能なら「ボランティア事務局」の方が当面担うのが良いかも。

実務者スタッフと登録利用者団体以外に市民の声を反応する形での

公募市民2～3名も入れる。(図)



### 運営委員会の役割

部会の機能

- ・相談、情報の発信、収集etc.

構成メンバー

- ・部会の正副
- ・市側の調整役的なものが事務局の責任者としてなり得る。
- ・相談窓口。内容の分析とこれの対処方法の方針決定検討。
- ・情報の発信。連絡調整作業。

### 事務局スタッフの役割

管理中心

- ・場所の管理のすべて。カギの管理、機器管理、場所の清掃、消耗品の補充、対外的な対応、連絡業務、調整業務。
- ・事務局長1名、副事務局長1名、外務、連絡、広報等。
- ・登録団体の連絡、調整をし、事務局(拠点)の管理運営を行う。

### 運営委員・運営スタッフ推薦リスト

発足までは運営委員を5名位推薦する。

大きな団体、市として公的な社会福祉協議会等を入れる。

負荷の点で問題なければ、推進会議の事務局ボランティア委員を中心に構成。

### その他運営方法について期待したいこと

有償スタッフとボランティア(関係)のシステムを最初から考える。

運営委員会は利用登録団体ばかりでなく、常に市民にも開かれ、市民の声を反応しやすいように、

2年に1回毎に市民メンバーは公募とする。

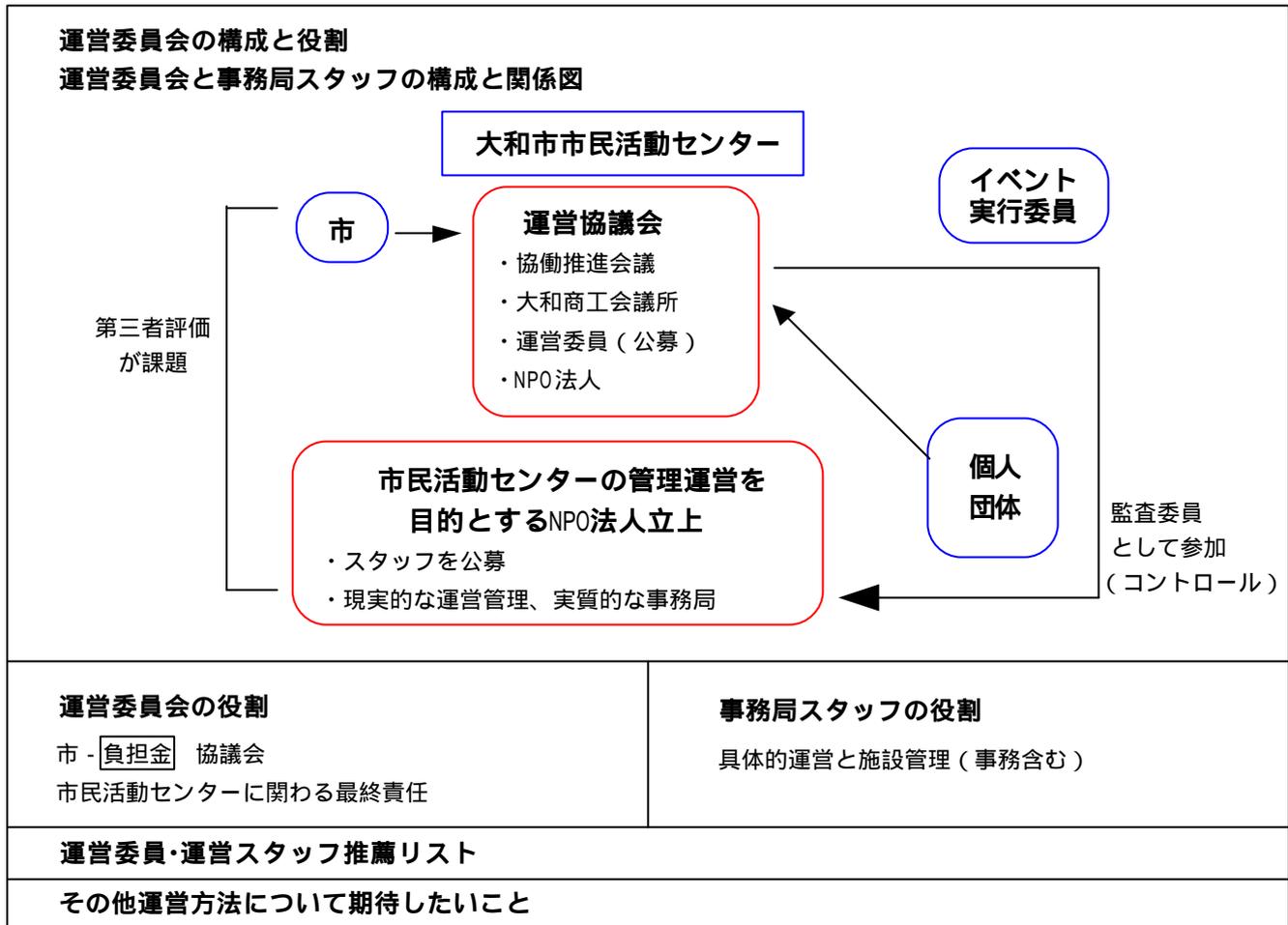
管理<自由な活動を重視する運営を。

運営委員の任期は2年とし、再選をさまたげない。2年任期、再選は2期まで。

### 発表

- ・拠点を会員制にする 利用者全員に会員になってもらう。その中から運営委員を出す。
- ・各部会をつくり、部会の中の正副の委員長が運営委員会を構成していく。
- ・運営委員会の役割・部会の機能 情報の発信、収集、相談。いろいろな部会を持って運営委員会の役割とします。
- ・事務スタッフ 会員の中から募集する。最初は管理中心、慣れてきたら相談などの橋渡しなども。
- ・無償のスタッフのシステムを最初から考えておく。
- ・運営委員の任期は2年、再選は1回。
- ・市民に開かれた運営委員会。

## グループ3



### 発表

- ・NPO法人 実際に運営管理をするスタッフ機能。
- ・市からのお金の流れは、運営協議会へ。
- ・運営協議会がある事で、スタッフをコントロールする。市民活動センターの全ての責任を協議会が負う。
- ・いきなりは無理なので、準備会を立ち上げる。スタッフを公募。
- ・スタッフ アルバイトなりスタッフを個別にローテーションする。スタッフ集団の組織化を図る。活動内容の公開を義務づけられているNPO法人が管理運営。
- ・市民活動センターの管理運営を目的とするNPO法人をここに作る。
- ・登録をする団体は会費をいただく。基本的には、団体でも個人でもセンターを活用できるようにすることが大事。
- ・寄付・会費を受け付けながら、会を大きくしながら健全な運営と活動の広がりをつくっていけるようにしていこうという話になった。
- ・運営をする団体が法人化されたときには、ずっと運営を委託されることになる。そのため、運営協議会から監査が入り、間違った方向に行かないような評価システムをつくっていく。
- ・市民活動センターの運営を評価できるように、第三者評価システムをつくっていくかがまだ見えていない。大きな課題。
- ・こういった機能をつくるかは、運営協議会が具体策を提示していくことになる。
- ・市民活動センターを使ったイベントやお祭りなど、地域との連携などは、個別にイベントの実行委員会を立ち上げていく。
- ・地元の人がグループに少なく、リストがくれなかった。

Q(3グループへ) 運営協議会は、公募した人が入らないのか。

A: NPO法人が運営主体なので、入ります。

Q: 管理運営を目的とする法人を立ち上げるということ？

A: はい。

Q: 270万円しかありませんが？

A: 考え方によっては、270万円あるというのは市民活動にとっては大きな資源だと思います。

## まとめ

本日の成果について拠点部会委員と事務局から意見と感想が出されました。

協議会、運営委員は、共通しているが漢字の表記が違う。どこかで共通しているのは、ヘッドの部分をちゃんとして、事務局が運営をしていく方法。事務局をつくった中で、スタッフを公募する点は共通していると思う。僕には違っているように見えますが。

運営委員会的なものに全責任を負わせたいというところは、共通している。

利用者総会や会員を明確にして会費を取るといのは、利用者を主体に考えて何かしら仕組みを考えていくという共通点にしか見えないのですけれど。

公開、平等、自由にやる基本性を持っている中で、運営の方法で少し違っている。

拠点部会のほうで何か方針を出してもらわないといけないと思います。9月オープンということですが、鎌倉の1カ月の運営実験のように半年くらいすったもんだしてみたり、実際、公募して人がどのくらい集まるのか、利用者数も想像がつかない部分もありますので、運営実験をやってみるのもよいと思います。組織図ばかりしっかり書いても仕方がない。自前で稼ぐようなことも考えないといけないのではないのでしょうか。場所があるのですから何かしらやれると思います。より多くの人に関われたほうがいいに決まっているので、限られた予算の中でもたくさんの方が関わっていきける方法を考えていきましょう。

相模原の場合は、ワンフロアを借りていることもあって、意外に日曜日の使用は少ないとか、午後が多く夜が少ないなどということがありました。拠点の位置や環境ということに、利用が左右されていくんだと思いました。このプレハブは、大学の部室みたいな感じもあるので、面白い使い方ができるのではないかと。相模原は綺麗だけど、大和は泥臭さをどのように上手く使えるかが課題だと思います。相模原は、駅前から遠く駐車場はしっかりしている。それに対してこういう場所で運営する方法を考え、自由な開かれた拠点になればと思います。

使い方、運営方法にしても、こういった役割を担っていくべきか十分話し合われているとは思えないので、何かしらのものを早急に立ち上げて議論を重ねていく必要があるかと思っています。今日出していただいた意見は、具体的なものなので一つのベースになっていくと思います。

拠点のイメージは、若い人達も集まれる自由な雰囲気が良いかと思っています。むずかしいテーマだと思うので、できるだけ早く準備委員会を立ち上げて拠点部会との意見交換を行い、内容を進めていったほうが良いと思います。

サポートセンターを見学に行き、3つそれぞれの市民運営が違うというのがわかりました。実際、今日も3つに分かれて案を出してもバラバラなので、大和らしいものをつくるのは大変だと思いました。しかし、拠点部会としては、皆さんの意見をいただけたので、やりがいがあるかと思いました。

私個人の考えとしては、市民参加・全員参加という形でやっていけたらと思いました。

どこかに専門性を確保し、みんなが使いやすいような状態で必ず誰かがいて、質問にも答えられる部分を確保していかないと、全体的に市民活動を促進していけないかもしれないと思っています。

中味はいろいろあると思いますが、話し合える場を早く設けなければと再確認しました。



## 感想カード

本日のワークショップについて、最後に皆さんに感想を書いていただきました。

・市民活動の拠点ということで、場所が明示されたことは大変良いことだと思いますが、その実際の動きという、どうなるのかということ、難しいなと思います。市民それぞれの活動が展開されるのはこれからということ、注視していきたいと思います。

・皆さんのさまざまな考え方をお聞きして、刺激的でした。鎌倉市民は船頭が多くて、まとめてゆくのが大変だということでしたが、大和市民は民度が高いと市長はご自慢のようですから、私も自信を持っておおいに考え、発言していきたいと思いました。

・多くの考えと働きの違いから一つにまとめることがむずかしいことで、柔軟性のある組織から出発したと思います。

・あまり前例にとらわれず、自由な発想で楽しんでつくっていききたいと思いました。

・とにかく準備委員会の立ち上げ、その会と拠点部会メンバーとの意見交換も行いながら、検討(時間を区切って)していくことが大切ではないだろうか。

・運営については非常に難しいことである。自分の中のイメージを明確にできず、案が出しにくかった。今日の検討を参考にしながら、現実をしっかり運営できるものにしていただきたい。2回では無理だったのでは。

・どろくさくお祭りの動きをするためには、既存の考えにとらわれず、どれだけそれぞれの市民や市民団体がどう自分の持っている力を発揮できるシステムや、要望のくみとりができる専門性のある運営委員会をつくるか。その目的も広がりのある多様性を持たせると良いと思いました。市民の居場所としての拠点でありたい(市民団体が...ではなく)。

・神奈川県下、近隣のサポートセンター3つの比較は大変興味深かった。同じ公設市民運営でもこれほど違うのかとビックリした。大和の拠点に関しても3グループそれぞれの特長があった。大和にふさわしい拠点づくりのための準備会を早急に立ち上げた方が良いと思う。

・いれもの(建物)があっても、誰がどのように運営するのが決まらないうと機能しないということ。運営組織作りが最も大切と思われるが、3グループの案に共通するのは、運営主体と実行部隊を組織することである。人選等、いろいろ問題もあるが、まずは完全でなくてもスタートすることが肝要と思う。方向性は見えてきている。

・市民参加、全員参加でやっていけたら理想です。

・活動の拠点が「プレハブ(部活)」で驚きました。各市町村に拠点の施設ができつつある中、立地を含め、非常に個性を出すには、材料が整っているのではないかと思います。様々な市民活動に携わる方々とお話ができ、非常に勉強になりました。本日のワークショップにおいて、市民参画という言葉は重要であるものの、具体的な形にしていくには非常に難しいのだと感じました。議論の中では、発表が思うようにできなかったのですが、今後の活動に役立てていきたいです。

・しくみ図を考えるのは、とても楽しかったです。絵に描いたモチにならないようがんばりましょう。活動センター前で大和の泥つき野菜など売って、資金をかせぎましょう。

